

目的 被服構成において重要な技法の一つである「まつり」は、指導時におこる問題として、まつることと、くけることを混同する者や、その箇所に適当でないまつり方をする者がある。これを理論的に指導するために必要な、まつることと、くけることの相違点、また各種のまつりやくけ部分の性能の差などを科学的に解明し、検討を行なった。

方法 綿グロード40番を基布とし、カタン系60番で、まつり(普通まつり、針目の流れた普通まつり、流しまつり)、たてまつり(正しいたてまつり、正しくないたてまつり)、くけ(正しいくけ、正しくないくけ)を行なった。各々針目の大きさは0.5cmで、たてまつりを除いてはいずれのまつり、およびくけも織系2本をすくい、同一人が試料を作った。洗たく前後のまつり、くけ部分の厚さ、引張り強度、平面摩擦による縫系の糸切れ本数、また洗たくによる針目のずれなどを測定した。

結果 1、いずれの性能も布の方向の差より、まつりやくけ方による差の方が大きい。2、たてまつりは他のまつりやくけより、まつり部分の引張り強度は大きい。3、まつり、くけ部分の強度は、洗たく前は織糸が切断されるが、洗たく後は縫糸が切断される傾向になる。4、摩擦による縫糸の糸切れ強度は、くけ、たてまつり、まつりの順に強い。